

YUNALyrics

目次

夏の鼓動	1
Homecoming song	2
Slight inflammation	4
今年の夏はもう二度と	6
Kill me thinking about you	9
さよならの味	11
one woman and one man	13
In a new city	15
Runaway	17
Memory of rock 'n' roll	19
I wanted love	21
虹の橋	23
明日が見えなくても	24

夏の鼓動

夏の鼓動

その痛みを感じながら知る

去り行く予報

それに疑う余地もなく

熱を帯びた

愛という名の終焉

影を伸ばした

太陽と共に沈む

Stay これ以上行かないで

違う日々を歩まないで

今日という同じ日を

僕等が共に生きるように

君の鼓動

それを知る術もないまま

離れた指が

道しるべを知るのかな

過ぎ去りし よぎる思い出は

目の前の海岸に 打ち寄せる波のよう

Stay これ以上行かないで

刻む時が辛くとも

背中を追う事や仕草を見つめる事が

夏の終わり

この願いは 届かない...

Stay これ以上望めない

これ以上 愛されない

今日という同じ日を

僕等が共に生きるようには

Homecoming song

昔から描いていた 夢見がちな夢に

ただひたすらに走り続けてきた

けれど成功や名誉を得た時に

いつの間にか帰るのが怖くなっていたんだ

捨ててきたあの街

逃げ出した懐かしい街

もう一度、愛する人の元へ戻ろう

だから歌う 僕は口ずさむ

Homecoming song

鍵を開けて待っていてくれと歌う

Homecoming song

銀幕が滑り落ちて

僕は光を浴びる

あらゆる賞賛を得るかも知れないけれど

その代償に切り刻まれた 破れた本のページを

繋いで貼ることも必要だった

今 僕は行く

愛する家族を求めて歌う

Homecoming song

笑顔を讃えて僕を待つ人に

Homecoming song

だから歌う 僕は口ずさむ

Homecoming song

鍵を開けて 待っていてくれと歌う

Homecoming song

Slight inflammation

誰もいない 誰も来ない

部屋の中で埋もれる

吐き出す術もない孤独

どんなに悪い事が起きても

叫べない 闇の中で

消えそうな僕の Slight inflammation

ちっぽけな僕の影を映す

消えてしまいそうな Slight inflammation

誰にも何も言えないままで

侵食されていく 蝕まれた身体

まるで廃人みたいだ

外の光さえ遮断する そんな閉じこもり方

起きれなくて闇の中で

消えそうな僕の Slight inflammation

泣けない辛さの影を映す

消えてしまいそうな Slight inflammation

泣いたらもっと悲しくなるんだ

叫べない 闇の中で

消えそうな僕の Slight inflammation

ちっぽけな僕の影を映す

力尽きそうになる Slight inflammation

また明日の空を見ぬまま...

今年の夏はもう二度と

あれほど暑かった 焼けつく太陽の季節

全ては輝いてそして 残酷に散った

子供のように二人はしゃいでいた絶えなかった笑顔

仕事や友達や、将来のことを

時を忘れて語り合った

信じてはだめよと忠告の言葉

周りにはあなたのことを そう言った

二人を不思議そうに思う 他人の視線とは違い

それでも私はあなたに溺れていた

それはゲームだったの

飢えていたあなたは私を利用した

やましい気持ちもないんでしょう？

朝日の差し込む部屋あなたがいた日は

こんなにも綺麗な夏が嘘のようで

言葉に出来なかったけど あなたが愛しかった

思い出なのね あなたが去った今は

あれ以上火が燃え上がらないまま

二人は争い醜い傷を作った

あなたのことをとても憎むほど

無邪気に笑っている あなたとすれ違い

それでも私は 交わす言葉さえもない

好きだったあなたの瞳と視線が合うたび

ナイフが心に突き刺さるよう

後悔しないわけにいかない

あれほど傷つけあう事はなかった筈なのに

ごめんねもう 誰のせいでもないのだから

決して罪をきせたりしない

多分お互いが上手くいくのには

大切であることが何か欠けていた

あなたが笑っている

流れてくる噂どおり

他の女性（ひと）のこと耳に入ってくる

もう何も出来ない 戻れない ただ今は

あなたをしばらくここでこうして見ている

こんなに近くに、近くにいるのに

遠く感じている

あなたを二度とは愛せない

これから誰かを好きになる

そしてこの夏を思い出す

それでももう二度と…

Kill me thinking about you

貴方から来る密会のお誘いは いつも忘れかけている頃で

タクシーで向かうその先の扉で 出迎えるのはいきなりの Kiss

ゆっくり幕が下りるように 窓のブラインドが閉じられてゆく

あたし好みの薄明かりに 何故か貴方がふっと微笑んで

一言目はいつも「逢いたかったよ」

こころの中の 1 ピース

欠けてるところだけは多分同じだけど

Please, Kill me thinking about you baby

終わりのある愛だから

Please, Kill me, press it with a pillow ah baby

いつか終わる愛だから

二言目は服を滑らせて 耳元で寂しかったよと呟いてる

目をそらせてあたしは何も答えないでいる

貴方には帰るところがあるじゃない

きつく抱くその身体に

委ねて溶けていくあたしもあたし

Please, Kill me thinking about you baby

こんな日々が続いていくうちに

Please, Kill me, press it with a pillow ah baby

これ以上辛くなりたくないのに

愛してる誰よりも

背中から突き刺さるその刹那が

血を流せるものならばこのままいっそ息絶えたい

こころの中の1ピース

互いにはめあう意味は何

騙しあいだらけの世の中を

ただ映し合うような愛の欠片

Please, Kill me thinking about you baby

終わりのある愛だから

Please, Kill me, press it with a pillow ah baby

いつか終わる愛だから

Please, Kill me thinking about you baby

この愛とともに殺されよう

Please, Kill me, press it with a pillow ah baby

貴方の中で殺されよう

さよならの味

何時もの儀式が終わるごとに 何時ものように背中を向けた

それでも貴方はいつものように腕をからませた

この愛が人生の一部なら一体何のもとに

誓いという言葉が存在しているのだろう

難しいことばかり頭が回る、回る、回る

ああ、別れというのは決して簡単なことじゃない

だけどいつか貴方は消えてくその時

さよならはどんな味がする？

たればなんて恋愛になくても 何故出逢ってしまったの

何故強引に貴方はあたしを誘って口説いてしまったの

誰かを傷つけたり裏切ることなんて知っていたでしょう

飲み込んでしまってもずるずるとあたしのせいかもね

そんな事はいいじゃないなんて貴方は

笑う、笑う、笑う

ああ 自分勝手 自由じゃない

もしあたしが切り出したその時

さよならはどんな味がする？

押し殺した涙のよう？

ああ 難しいようで簡単ね からまる解けない糸のようでも

バッサリハサミで切るように

あなたも経験したでしょう？

何故こんなに頭が回る、回る、回る

いいじゃないなんて 笑う、笑う、笑う

ああ 難しいようで簡単ね からまる解けない糸のようでも

所詮は禁断の愛だから

きっと苦くて染みるような

そんなさよならの味がするんだろう

誓いなんて永久にない

そんな勝手な愛だから

そろそろ口にするべきの

さよならはどんな味がする？

one woman and one man

ぼやけた月明かり 薄らぐ蒼染めた朝

冷たい空気に誘われるがままに吸い込まれ

ボンネットに横たわると 空を隠したあなたの影

今何処までの果てない道を教えて

少しずつ高くなる太陽が窓に照り返す

このまま どこかへ Ah...

あたしたちはたったふたり

ひとりの男と ひとりの女

どんなに惹かれ合い 愛しても愛されても

結ばれない運命を知りながら

今はただ走るだけ 走るだけ

忍び寄るものも今は何もない

波の傍らの国道をひたすらなぞるだけ

出来ることならば ずっとさらいたいくらいに

狂おしいほど身体の中に熱がたぎる

叶わない夢ならば 未知の旅の終わりまで

このままだこかへ Ah...

あたしたちはたったふたり

ひとりの男とひとりの女

確かな意思で愛し合いひとつになれど

変わらないもの振りほどいて忘れようとして

今はただ走るだけ 走るだけ

海沿いの先 急カーブ あなたとなら

このままダイブしても構わない

他には何もいない

あたしたちはたったふたり

ひとりの男とひとりの女

どんなに惹かれ合い 愛しても愛されても

結ばれない

あたしたちはたったふたり

ひとりの男とひとりの女

確かな意思で愛し合いひとつになれど

変わらない運命を知りながら

今はただ走るだけ走るだけ....

In a new city

僕は新しい街で振り出しに戻った

作り上げたものがまだ戻らない

でも空に恵みの朝を見るだけなんだ

今夜目覚める新しい街は

灯りを消しても眠りを知らない

様々な感情の中 未来に伝える

それがここで生きる証だとね

最下層の幻想と笑われ

それでも誇り高い理想を得る

だってその階段を昇らなければ

そのまま留まって終わってしまうだろう？

今夜輝く美しい星は

朝に飲まれ希望となるだろう

交錯する幸と不幸の街

それをここで見つめるのだろう

毎日精一杯生きて疲れて

毎日それがへとへとでも

炎が燃えて焼き尽くされて

達成感を得るだろう

今夜ぼくは目を閉じる

実現するために夢は作るものだ

眠っても眠りをしらないのは

ぼくがここで生きてる証

ぼくが伝えたい生きる魂

Runaway

季節が変わりゆくのが こんなに惜しいなんて

時間が止まらないのが こんなに切ないなんて

不思議な感情が伝う

今はまだどうかこのままで暖かなこの闇のなかで

光が差し込むまでこの腕の中にいさせて

朝が来たらきっと出ていくから

Runaway 次の約束はしない

君が行き来しているだろうその線路の先にあるもの

見えない未来を見つめて息を吹きかけてるのは何故

日ごとに空気の冷たくなる中まだいかないで

何度会えても 扉は開かないから

Runaway 朝が来れば同じ

肌のぬくもりはやがて白い景色にとけて

奪われていくものだから

Runaway 次の約束はしない

Runaway 夜も 朝が来ても同じ

どこか遠くへ きっと逃げたい

どうせならその優しきで胸の中に痕を残さないで

Runaway 次の約束はしない

Memory of rock 'n' roll

路地裏に転がった空き瓶

粉々に砕けて 赤く染まっていた

まるで初めて出会った君が抱えていた

ギブソンのギターのように

今はもう腐ってかき鳴らすことも出来ない

君が張り替えてからこのままの弦は

Memory of rock 'n' roll

狂ったように歌を書いた

狂ったようにかき鳴らしたギター

何もかもを愛せていた時代

君との音楽も心も仕草も

ずっと離れないように 愛より友情を選び

生き続けるはずだったのに あの日から

Memory of rock 'n' roll

君との rock 'n' roll

君去りし rock 'n' roll

何故君の命が奪われたのか

自問自答しても答えは出ない

けれど僕は忘れない

君との rock 'n' roll

例え他の誰もが忘れても

I wanted love

そこそこ暮らせて 生活にも困らない

十分なはずなのに僕には誰もいない

仕事なんて順調にいついても

倦怠感や 疲労感は僕を孤独に蝕むんだ

この先生きて行く先 何が待ち受けているのだろう

僕は親しい全てを無くした

親しい人全てを

I wanted love,I wanted love

そう最近将来について 何となく考えるんだ

誰もいない今僕に寄り添ってくれる人がいるのかと

僕は誰なんだ？ 誰になりたいんだ？

必要とされ必要とするものはあるのか？

全てが消されて行く恐怖感を覚えながら

それでも強くいたいんだ

自分の鏡に 決して映さない

泣き顔を 情けない顔を

これ以上見つめていたくはないんだよ

この先生きていきたいよ 何が待ち受けても

失うものはもうないのだから

這い上がるしかないんだ

この先 生きて行く先 何が待ち受けているのだろう

僕は親しい全てを無くした

親しい人全てを

I wanted love,I wanted love

虹の橋

まるでぐしゃぐしゃの雑巾のように

ひたすらに心に雨が降りしきる

この暗闇に打破する力がなくて

ずっと途方に暮れる様だったんだ

そして雨上がりを待っている

架かる虹の橋を待っている

僕らが待ち焦がれた 希望の空がそこにある

まるで水たまりにはまるかのように

がんじからめで動けない日々

そして夕焼けを待っている

架かる虹の橋を待っている

湿りきった全てを 洗い流す虹を待っている

僕らは雨上がりを待っている

架かる虹の橋を待っている

肉体や精神のあらゆる癒やしを得るためなんだ

明日が見えなくても

眠れない夜 朝を待ちたくて

僕は離れていく

跡形もなく 跡形もなく

僕は旅立っていく ye ye

静かな夜が明けたら

何も見えなくても

明日が見えなくても

何かを考えなくても (将来) どこかに転がってる

とても忙しそうな (人々) 横目にしては

何でも取り巻く問題を (共に) 戦ったけど

寧ろ得られるヒントは

影をぬけ出した光に在るはず

だから旅立つんだ ye ye

闇を切り裂いて

光輝いた ye

そのパンドラを探しに

眠らない夜 朝を迎えたくて

この街を捨てて

見ぬことのない明日へと

色んなものを漁ったよ家族や友人達と

色んなものを失って 気づいた 愚かさ

誰も止めやしないだろう？（止めない）

信じるものだけを

胸に抱いてただ今は待ってる

今夜を乗り切る時を

僕は旅立っていく ye ye

不気味な静けさも

僕には希望に思える

真っ暗な空

眠れない夜 朝を待ちたくて

跡形なく消えて

まだ知らない明日へと

眠れない夜 朝を待ちたくて

僕は離れていく

跡形もなく 跡形もなく

僕は旅立っていく ye ye

静かな夜が明けたら

何も見えなくても

明日が見えなくても

だから旅立つんだ ye ye

闇を切り裂いて

日が昇る時は

知らない運命の始まり

YUNA Lyrics II

版番号の予定

{{-
-}}

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
